



地域子育て支援センター ラポールだより



9 月 号

認定こども園
やまかげ保育園
090-3234-2362



【すくすく広場の開催日程】

9月1日(火)・8日(火)・15日(火)・29日(火)
10:00~12:00

ラポールにて、お母さんと子どもと一緒に小物作りや遊びをします。
利用は無料。おやつもあります！お気軽においで下さい。



Tシャツアート教室

毎年大好評で、リクエストの声もたくさんの、Tシャツアートのお知らせです。前もってどんな感じにするかを決めて、親子や兄弟姉妹セットで仕上げて、ファミリーみんなで楽しむこともできますよ。新しいTシャツは、必ず1回洗ったものをお持ちください。色落ち防止になります。

日 時:9月8日(火)
場 所:ラポール

☆完全予約制です。
事前予約をお願いします。



アロマテラピー教室

お待たせしました。毎回予約を取るのに大変な、アロマ教室のお知らせです。
素敵な香りに包まれながら、極上の1品が出来上がります。
今回は、エプソムソルトを作りたいと思います。
病気知らずの親子を目指して、アロマテラピーを生活に取り入れましょう。

日 時:9月1日(火)
場 所:ラポール

☆完全予約制です。事前予約をお願いします。



○ 南島原市保健センター情報 ○ こども未来課こども保健班 0957-73-6652

事業名	実施日	受付時間	場所	事業名	実施日	受付時間	場所
乳児 相談	9/14 (月)	通知を確認 して下さい	布津	1歳6カ月 健診	9/11 (金)	12:15~ 12:45	布津
	9/17 (木)		北有馬	3歳児 健診	9/2 (水)	12:15~ 12:45	布津

花咲く書道教室

前回も好きな文字や、子どもの名前等を入れたとても素敵な作品ができました。講師の先生が一人一人に丁寧に教えて下さるので、初めての方や書道やお絵描きが得意でない人もびっくりするくらいの仕上がりになりますよ。どうぞお気軽にご参加ください。

日 時:9月29日(火)
場 所:ラポール

☆材料の準備がありますので、
事前予約をお願いします。



子どもに関するアンケートで、我が子には「思いやりのある子になってほしい」という回答が上位にあがります。これはいつの時代でも、変わらない親の思いのようです。そんな「思いやり」とは、どんなことなのでしょう？ また、どうすれば育めるのでしょうか？ 今回は「思いやり」について考えてみたいと思います。

「思いやり」とは、「相手のためになる気持ちと行為」であり、「相手の気持ちを想像する力」が発達してこそできる、とても人間らしい社会的行動です。

相手の気持ちを想像して、相手のために行動する「思いやり」が表れはじめるのは、自我が発達し、相手の状況が少しずつ理解できるようになる2歳頃からです。

「思いやりは」人と深く関わる中で生まれるものなので、まずは一番愛着のあるママやパパへの思いやり行動から始まります。そこから、お友達や生き物など、思いやりの対象を広げていくには、まず、子どもが最初に思いやりの対象とするママやパパへの思いやりを十分に伸ばしてあげ、お互いに思いやる関係をきちんと築くことが大切です。

「思いやり」を育む土台として大切にすべきものは、親子のかかわりなのです。

「子どもを思いやり、十分な愛情を注ぐ」

子ども自身が親からの思いやりを感じていなければ、他の人を思いやる気持ちは生まれません。

まずは親が子どもに十分な愛情を注ぎ、「ぼく（わたし）を大切にしてくれる」という実感をもたせることが大切です。

特に下のお子さんがいらっしゃるご家庭では、下の子ばかりに目が行くと、「ぼく（わたし）が大切じゃないんだ！」と誤ってしまいがちなため、普段から意識して上の子への愛情を表現してあげましょう。



「強要せずに自発的な思いやり行動を待つ」

親は「お友達におもちゃを貸してあげなさい。」などと思いやり行動を強制してしまいがちですが、子どもが3歳くらいだとまだ「自己を犠牲にした思いやり」を求めるのは難しく、貸さずに「イヤ」と言ってしまうことが多いかもしれません。

相手のことを思う気持ちはあっても、その場では判断ができず、行動にうつせないという場合もあります。

成長と共にお友達との関わりも増え、4歳頃からは自発的な思いやりが見られるようになります。



「手本になる言動をたくさん見せる」

子どもは親をとってもよく観察しています。

親が日常的に他の人への思いやりを持っていれば子どもにも思いやりの心が自然に育っていきます。

例えば、お友達が風邪をひいてしまったときは、「○○ちゃん、つらいだろうね。早く治って一緒に遊べるといいね。」などと、思いやる心を言葉で表現しましょう。

普段の生活を観察して蓄えた思いやりの心は、いずれ自然と子どもの行動に表れてきますよ。



「思いやりの芽を見逃さずに認める」

子どもが思いやりの行動を見せたとき、親はすかさず認めてあげましょう。例えば、買い物帰りで重い荷物を持っている時、子どもが「重いの？」と聞いたら、思いやりの芽生えだと思って、「心配してくれてありがとう。大丈夫だよ。」などと子どもの思いやりの気持ちを認め、感謝を伝えましょう。

認めてもらった経験が蓄積されていくと、自分から積極的に思いやり行動をしなくなっていくことでしょう。

